



JA新しいわての自己改革

もっと知ろう、JAの取り組み

JA新しいわての「農家所得の増大」や「農業生産の拡大と経営基盤の安定」に向けた取り組みを紹介。今月はGAPの取り組みを紹介します。

GAP推進の基本的考え方

従来以上の高い安全性と信頼確保のため、以下の5つの基本項目を主眼として取り組みます。

- ①食の安全安心の確保
- ②農産物の品質向上
- ③環境への負荷軽減
- ④農作業による生産者の危害防止
- ⑤経営の改善

推進方法

岩手県版GAP(基本様式)への取り組みを推進し、段階的に岩手県版GAP(基本様式)+レベルアップ及びジャパンGAP等への取組みの普及・定着を図ります。

取組対象作物

JA新しいわてで生産される米、園芸特産等を基本として取り組みを推進します。(必要に応じ、他品目も推進します。)

- ①米…当面、「銀河のしずく」を中心とした県オリジナル品種に重点的に取り組みます。
- ②園芸特産…JA新しいわての重点推進品目である「キャベツ」「ほうれん草」「レタス」「ピーマン」を中心とした取組みを推進します。

生産者の声



岩手県版GAP団体第1号取得
久慈地域南部地区ほうれん草協会

なかむら はやと
中村 駿人さん

将来的にはGAPの価値は高まってくると思う。

先進的な取組みをしており、こだわりを持って生産しているグループとして、優先的に販売してもらえらるほうれん草を作っていきたい。

「GAP」に関する疑問(Q&A)

なぜ今、GAPなの?

「食の安全・安心」に対する関心の高まりと、2020年東京オリ・パラ開催に伴う食材調達基準にGAPを実践している農畜産物であることが示され、にわかにGAPが注目されています。

GAPを取得すれば オリンピックに提供できるの?

生産者が直接的に提供はできません。東京オリ・パラ組織委員会が認めたジャパンGAP・グローバルGAPの他、国のGAPガイドラインに完全準拠したGAP(岩手県版GAP確認・登録制度)に基づき生産された食材とされ、最終的にはサプライヤー(大手量販店・加工業者等)が組織委員会から提供業者として指名されるとされています。当然、サプライヤーは、GAPを実践している農畜産物を求めてくることになります。

GAPの取組と 期待される効果とは?

農業にはさまざまなリスクがあります。このことは、消費者のみならず生産者自身にも大きな危害要因として発生します。ひとつひとつの作業工程において、基準や法令・ルール等を遵守することにより、あらゆるリスクを低減することができます。GAP=高単価には直結するものではありませんが、GAPは「食の安全・安心」の確保に大きな効果が期待されます。※平成30年7月に、久慈地域南部地区ほうれん草協会が、団体(11名)として岩手県版GAP第1号を取得しました。

- ①推進にあたり、岩手県・普及所・JAグループ及びJA新しいわてが万全な支援体制を構築し、指導、支援して参ります。
- ②GAPに関するご相談・お問い合わせは、最寄りの営農経済センターまたは本所営農経済部営農企画課までお願いします。